



「聖霊のお働きの秩序」に応える群れ

愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。
（コリントの信徒への手紙一14章1節）

おの 小野寺 泉

新しい年を迎えました。本年も主イエス・キリストの御守りと祝福がありますように。

この年の最初に与えられた御言葉は、「愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい」です（I コリント14:1）。

この御言葉では、愛を求めることと、預言の賜物を求めることとの二つが語られています。教会において、愛（アガペー）は、特に、預言することによって具体化するからです。今日の説教のことです。実際、預言は「人を造り上げる」のです。人を、主イエスの御体の一肢として生かすようにします。

このことを丁寧に受け取るために、テキストの前後関係を見てみます。コリントの信徒への手紙一12章1節～14章40節までは、改革教会の教会論の代表的テキストとされています（藤掛順一著『信徒のための改革教会の教理』）。使徒パウロは、聖霊が「イエスは主である」という信仰告白をもたらすということから話を始めています（12:3）。次に聖霊の様々な賜物、働き、務めが一つのキリストの御体を明らかにするために働いていると言っています（12:4～26）。しかし、そこには秩序があるということです。それは使徒の証言である聖書とその解き明かしとして説教を一番大事にするというものです（12:28）。

では、この秩序は何を基準にしているのでしょうか。それを語るのが13章1～13節の「愛（アガペー）」なのです。それを受けて、14章1節以下では、愛という賜物を大切にすればこそ、預言の賜物を尊重した礼拝を形成するようにと勧めています。こうして聖霊なる神は、神の言葉を一番にするという秩序を求めています。なぜなら、聖霊は、愛そのものであ

説教 「聖霊のお働きの秩序」に応える群れ

…… 小野寺 泉 …… 1

大信仰問答 CATS・愛⑩

エッセイ「第13章 主の祈り」

…… 李 炳斗 …… 2

■ 新約聖書に聴く「主の祈り」(13)

…… 後藤 憲正 …… 3

教会、この地とともに⑦ 茅ヶ崎東教会

み言葉に聴き続ける教会

… 茅ヶ崎東教会小会 …… 4

SDGsについて考える⑨（目標5）

もはや“縛られた”者たちではないのだから

…… 森下真裕美 …… 5

■ 次世代へのメッセージ⑬

伝道者であること

…… 鈴木 攻平 …… 6

第72回大会を終えて

新たな歩みに向かって

…… 有賀 文彦 …… 7

教会ニュース

…… 8

る主イエス・キリストの主権を求めているからです。

わたしたちもこうしたことを求めて、信仰告白と憲法規則を定め、歩んできました。使徒パウロに従えば、「聖霊の働きの秩序」に応答し、正しく明らかにすることを願ってのことだったはず。「信仰告白」と「教会規則」の間に「聖霊の働きの秩序」があるのです（K・バルト著『和解論Ⅲ／4』p139）。

この「聖霊の働きの秩序」という点を外すと、イエス・キリストの教会は、単なる地上的な組織体としての宗教団体になり、この世の力にからめ捕られてしまいます。具体的には、神の語りかけの言葉である聖書と説教を重んじなくなる、ということです（第二スイス信条第一条）。もちろん毎週、説教は真面目になされ、熱心に聞かれています。しかし問題は「それなのに、何故、福音がこの世の人々に届いていかないのか」ということにあります。この課題に向き合うのです。教会員の数の減少は幾度も言われますが、この世の同胞に福音の言葉が届かず、神でないものの力にからめ捕られてしまっていることに対する嘆き悲しみは聞かれません。古い言葉でいえば「救霊」が言われないのです。何故でしょうか。

教会が再び神の力を与えられて歩み出すことを願うなら、人間が、神の語りかけの言葉を語り、聞くとは、どれほどの驚くべき恵みであるのか、そこから出発すべきでしょう。「愛を求めなさい」と言っています。受肉こそは、神の愛の出来事だからです。それ故に説教の賜物を専一的に求めるのです。多くの人と共に、教会の一肢として生かされるためです。

（富良野伝道所牧師）